



# 園芸文化館 (仮称)

日本の園芸文化を知り・感じ・未来につなぐ

A1クラスの  
国際園芸博覧会  
37年ぶりの  
日本開催

## 地球と。咲きに行こう。

### 「GREEN×EXPO 2027」とは

2027年に神奈川県横浜市(旧上瀬谷通信施設)で開催される国際園芸博覧会の略称です。「植物」、「花」、「緑」を総称し、「自然」、「環境にやさしい」という「GREEN」、国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会「EXPO」という語を掛け合わせ、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場であることを表現しました。日本では1990年の大阪花の万博以来37年ぶりとなる最上位(A1クラス)での開催で、BIE(博覧会国際事務局)認定の万博でもあります。

### 「幸せを創る明日の風景」 Scenery of the Future for Happiness

横浜スタジアム約28個分、  
約100ヘクタールの広大なエリア

## 1000万株の花と緑が集結

四季折々の花と緑が集い、豊かな自然や生物多様性を体感できる空間が広がります。会期初めには、約40種600本の桜が咲き誇ります。



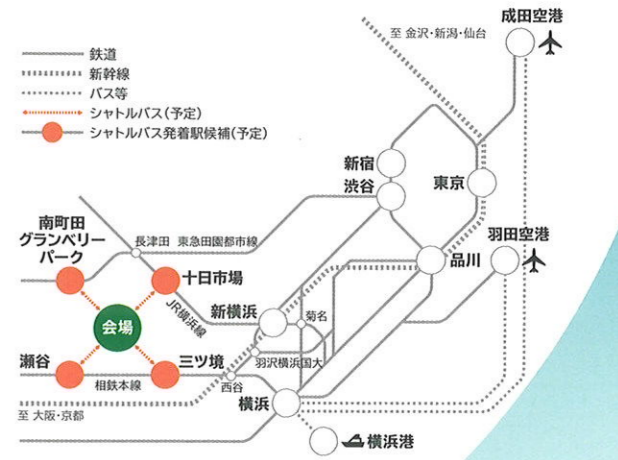
<p>グリーン社会を実現する最新のテクノロジーと出会う場 Urban GX Village</p>	<p>自然と共に育まれた日本の伝統的なものづくりが一堂に集まる場 Craft Village</p>	<p>「農」と「食」を通じてウェルビーイングを追求できる場 Farm &amp; Food Village</p>
<p>これからの地球を生きる子どもたちが楽しく自然と世界を学べる場 Kids Village</p>	<p>自然と人の共存する暮らしの心地よさを再発見できる場 SATOYAMA Village</p>	<p>“命の根源”である植物。その真の姿に迫るテーマ館では、“地球環境の一部としていかに生きていくか”をリアルとデジタルで体験できる。</p>
<p>政府出展では、最高水準の日本庭園やいけばな、盆栽と共に、地球環境の課題解決に向けた新技術に触れられる。</p>	<p>園芸文化館では、日本が長年育んだ園芸の美と精神を紹介。江戸を中心とした日本の園芸文化の水準の高さや自然観、季節感を体感できる。</p>	

**開催場所** 神奈川県横浜市 旧上瀬谷通信施設  
**開催期間** 2027年3月19日(金)～9月26日(日)

公式 SNS

公式 ウェブサイト

お問い合わせ GREEN×EXPO協会(公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)  
☎ 045-307-2027 ✉ info@expo2027yokohama.or.jp



## 2027年国際園芸博覧会

開催期間：2027年3月19日(金) - 9月26日(日)



開催地：神奈川県横浜市 主催：GREEN×EXPO協会(公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)

# 園芸文化館

(仮称)

園芸文化を  
「知る」「感じる」  
「未来へつなぐ」展示



未来へつなぐ

シアター

花屋敷

感じる展示

植木屋の主人の家

知る展示

## Point

- 伝統園芸植物をこれまでにない規模で展示
- 変化朝顔や盆栽など、観賞と育種を融合した展示
- 江戸の植木屋の庭や道具を再現
- 年中行事と暮らしの植物文化を映像・資料で紹介
- 国際文化交流拠点・横浜から園芸文化を発信
- 若い担い手や地域との連携により次世代へ継承



のと  
キリシマツツジ

(協力: NPO法人のとキリシマツツジの会)



大藤

(協力: あしががフラワーパーク)



徳川三代将軍  
家光公遺愛の  
五葉松

(協力: 東京都立園芸高等学校)

日本を代表する園芸団体・愛好家の協力により、  
江戸時代から現代に受け継がれてきた伝統園芸植物や盆栽が集結。



盆栽をはじめ、多種多様な伝統園芸植物を展示予定。

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
万年青(オモト)	桜草(サクラソウ)	富貴蘭(フウキラン)	変化葉瓦葺(ヘンカバノキシソブ)	朝顔(アサガオ)	変化朝顔(ヘンカアサガオ)	南天(ナンテン)
春蘭(シュンラン)	花桃(ハナモモ)	楓(カエデ)	花菖蒲(ハナショウブ)	卷柏(イワヒバ)	蓮(ハス)	万両(マンリョウ)
長生蘭(チョウセイラン)	牡丹(ボタン)	細辛(サイシン)	葉蘭(ハラン)			松葉蘭(マツバラン)
君子蘭(クンシラン)	芍薬(シャクヤク)	撫子(ナデシコ)	石路(ツツブキ)			百両金(カラタチバナ)
雪割草(ユキワリソウ)	躑躅(ツツジ)	草月(サツキ)	石菖(セキショウ)			紫金牛(ヤブコウジ)
椿(ツバキ)	桜(サクラ)	紫陽花(アジサイ)	斑入り植物			菊(キク)
木瓜(ボケ)						

● **日本の園芸文化を未来へ**  
横浜で開催される2027年国際園芸博覧会(GREEN EXPO 2027)では、日本の園芸文化を総合的に紹介する「園芸文化館(仮称)」の準備を進めています。  
これは江戸時代から受け継がれてきた園芸の文化と技、人々の営みを、実物や体験を通して伝えるはじめての試みです。  
日本人が育んだ自然観と植物の美意識を背景に、江戸に花開いた伝統園芸植物を中心に紹介し、園芸を趣味にとどめず、文化や技術、地域資源として捉え直します。あわせて、その美意識と知恵が現代の暮らしや持続可能な社会にも生かせることを紹介します。



園芸文化館(仮称)イメージバース ※デザイン監修 建築家 隈研吾



展示イメージバース

● **なぜ今、園芸なのか**  
園芸は、日本の暮らしの中で育まれてきました。ツバキやサクラ、ツツジ、変化朝顔、盆栽などに代表される伝統園芸植物は、観賞の楽しみと育てる技が結びつき、世界に類を見ない多様な文化を形づくってきました。  
しかし今、担い手の減少などにより、継承の転換期を迎えています。本展示では、園芸文化を未来へつなぐ大切な資源として社会に発信します。

● **未来への提案**  
本展示は、園芸文化の歴史を振り返るだけでなく、美意識と技術の継承を通じて、自然との共生、地域とのつながり、心の豊かさを改めて考える機会をつくります。  
貴重な遺伝資源や園芸文化を次世代へ継承するとともに、新しい栽培品種や観賞のあり方など、これからの園芸文化の可能性を示します。

● **知る・感じる・未来へ**

展示は「知る」「感じる」「未来へつなぐ」の三つのテーマで構成され、屋内外を巡りながら園芸文化の奥深さを体験できます。  
映像やミニチュア、実物展示を通して、伝統園芸の魅力や歴史や美意識、技と地域性の重なりとして立体的に紹介します。接ぎ木や変化朝顔に代表される育種技術や、受け継いできた感性と工夫を、具体例とともに伝えます。